



(ひかみちゃん)

ほだかの里だより



(ほだかくん)

—大高歴史の会会報—第53号

令和6年(2024) 4月発行(春号)

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上(かた)の里」、または、「火高(かた)の里」と呼ばれていました。

第53号 目 次

まちかど案内板の新化	山口初宏	P1~3	大高歴史の会の歩み・大高の行事催事	P 5
			大高緑地の四季Ⅴ 春の花木(その2)	
大高のできごとあれこれ		P 4	山口初宏	P 6

まちかど案内板の新化

山口 初宏

大高歴史の会では、活動の一環として「まちかど案内板」を設置している。

これは大高の歴史的箇所の概要を地域の皆様、あるいは他の地区から訪れた方々に知っていただくことを目的として大高各地に全部で17か所、設置されている。

第1号は2011年6月に辻の秋葉社に設置された。

案内板は故山口輝雄前会長が文言を創案し、元会員の故伊藤万平さんが大工棟梁の腕前を振るって独特の形をした木枠を制作し書道の先生方に揮毫をお願いして会員有志が据付けたものである。

設置後のトラブルは山神社の案内板の支柱がシロアリによって食い荒らされ倒れてしまった事。

再発防止処置は伊藤万平会員によって行われ、支柱の一部を切断して防虫処理した新しい支柱にボルトで接続して且つ支柱をコンクリート台座にセットして地上面に突出させて設置した。

後日、高蔵坊稲荷の支柱もシロアリ倒壊したので同方法にて野崎、中村両会員により修復した。

書道家による格式高い文字で立派な案内板だったが設置場所が屋外のため、日光や雨風に晒される自然環境の中では耐えきれず経年劣化により読みづらくなってきた。



劣化した案内板(設置後6年)

設置後3年経過した2014年から野崎会員による見回り点検と防水ニスの吹き付け・等の表面処理を実施してきたが、それでも追いつかず終には読



めなくなったので抜本的な対策の検討を開始。

その過程で(有)アドテックさんより提案のあったアルミ複合板にパソコンで作成した文章を印刷し塩ビ出カラミネート加工+貼り加工したものを試作品として制作し、第1号の辻の秋葉社案内板の上に重ねステンレスのビスで止めてみた。

その処置を経過観察してきた結果、ノーマンテナンスで3年経過しても何ら変化もなく新品同様の美しさを保っていることが確認できた。



ビス止めした案内板（更新後6年）

以降、老朽により読めなくなったものを新化と称

し、後に続く残りの案内板への展開を図ってきた。その内容を下記「まちかど案内板一覧表」に、設置場所を次ページに示すので読者の皆様方にも散歩等の折に現地を訪問され現物をご覧になっていただければ幸いです。

<追記>

昨年末に長寿寺の住職さんより山門横に設置されている「久野広成」案内板がシロアリに食われて倒壊しているとの話を伺い現地調査した所、支柱と本板の裏側まで食い荒らされていた。このため先に更新した塩ビ出カラミネート加工+貼り加工した板を再利用して案内板本体を新作する必要があると現在、仕入先を鋭意検討中である。

このように既存の案内板は本体の柱や木枠も老朽が進んでいるので今後どのような対応が最適かを検討していく。

まちかど案内板一覧表

No	名称	設置年月	設置場所	新化年月
1	辻の秋葉社	2011年6月	高見	2017年5月
2	津島社	2011年9月	北大高畑	2019年4月
3	江明公会堂の力石	2011年11月	江明	2018年6月
4	山神社(やまのかみしゃ)	2011年11月	西丸根	2023年10月
5	田中神明社	2012年3月	田中	2023年10月
6	下村神明社	2012年3月	西丸根	2022年9月
7	石神白龍大王社	2012年3月	石神	2020年8月
8	城山八幡社	2012年4月	大高城跡	2022年5月
9	中之郷 津島社・秋葉社	2012年6月	下汐田	2019年6月
10	八幡社	2012年11月	町屋川の八幡社	2018年6月
11	高蔵坊稻荷	2013年7月	長寿寺横	2018年6月
12	久野広成歌碑	2013年9月	長寿寺山門前	2019年6月
13	西口地藏尊と道標	2013年11月	新町	2018年12月
14	奉安殿(学区資料保管庫)	2014年10月	町屋川	2018年12月
15	寝覚の里	2014年10月	中島	2022年9月
16	道しるべ地藏	2016年3月	大高北小正門横	2020年10月
17	本町公会堂	2019年9月	本町	(新化品)

まちかど案内板の設置場所



- | | | | | |
|---------|---------|----------|--------------|---------|
| ① 辻秋葉社 | ② 津島社 | ③ 江明公会堂 | ④ 山神社 | ⑤ 田中神明社 |
| ⑥ 下村神明社 | ⑦ 石神白龍社 | ⑧ 城山八幡社 | ⑨ 中之郷津島社・秋葉社 | |
| ⑩ 八幡社 | ⑪ 高蔵坊稻荷 | ⑫ 久野広成碑 | ⑬ 西口地藏尊と道標 | |
| ⑭ 奉安殿 | ⑮ 寝覚の里 | ⑯ 道しるべ地藏 | ⑰ 本町公会堂 | |

(完)

＜大高のできごと あれこれ＞ 〔令和 6 年（2024）1 月～3 月〕

「大高地区成人式」(1 月 8 日)(月)

大高・大高南・大高北の 3 学区合同成人式が大高中学校体育館にておこなわれた。

「どんど焼き」(1 月 14 日)(日)

全国的には左義長(さぎちょう)ともいわれるが大高では「どんど」又は「どんど焼き」という。神社の境内で正月飾りなどを燃す。

この火で焼いた餅を食べると病にかからないと言われている。今年も八幡社の他、田中の神明社でも行われた。



「酒蔵の新酒販売」(2 月 24、25 日)

恒例の酒蔵散策会は雨天のため中止されたが新酒の試飲・販売は神の井、山盛の両酒造にて行われた。当日は大勢の愛好者が訪れ新酒の味と香りを楽しんでいた。

「にっぽん城まつり2024」に出展(3 月 2・3 日)

今年は吹上ホールにて開催され、大高地域観光推進協議会ブースの中で大高城の御城印新、旧の 2 種類、正光寺、向山、氷上砦の砦印、大高絞り巾着袋、等を販売した。

広い会場では、講演会の他、全国の城の紹介や東海 3 県の酒蔵による日本酒も販売された。

「長寿寺 高蔵坊稻荷例大祭」(3 月 3 日)(日)

行事は神事のみ実施された。伝統の“とうたけ飯”は後継者不足により行われなかった。くじ引きもなし

「緑区学区対抗駅伝大会」(3 月 3 日)(日)

大高緑地にて行われ、結果、大高南 2 位、大高 4 位、大高北 6 位と全学区入賞と大活躍であった。

終了後、大高北学区のふれあいウオーキングも行われスポーツを満喫した。

「春江院 弁財天大祭」3 月 15 日(水)

神事と、くじ引きが実施された。

「スタンプラリー みどりっち みーつけた」

2 月 15 日～3 月 15 日の間、緑区観光推進協議会主催で行われた。応募者の中から抽選で 50 名に「みどりっちプレート」が授与された。

「太々神楽」 3 月 31 日(日)

太々講と氷上姉子神社氏子総代の出席の下、神事と神楽が何の制約もなく執り行われた。

楽人と男役の舞人は熱田神楽笠寺保存会が奉仕し神子役は熱田神宮の巫女が担当。

当日は晴天に恵まれ散策や参詣の人々で賑わった。



大高の行事予定(2024 年 4 月～2024 年 7 月)

4 月 8 日(月)花まつり 釈迦の生誕を祝う行事(春江院・長寿寺・薬師寺・甘茶がいただけます)

5 月 6 日(月)頭人祭 11 時～氷上姉子神社 熱田神宮から頭人が派遣され鷹の絵馬と粽(ちまき)を供える。神事終了後、神官が自ら絵馬を壁に掲示して粽は参拝者に配られる

5 月 19 日(日)鷺津・丸根砦慰霊祭 鷺津砦 10 時～ 丸根砦 10 時 30 分～

6 月 23 日(日)熱田神宮大高斎田御田植祭 10 時～神事と早乙女による田舞、田植えが行われる

7 月 7 日(日)津島社例祭 10:30～ 16:00～中之郷津島社 「祇園祭」

7 月 20 日(土)龍宮社例祭 (旧 6 月 15 日)19:30～

7 月 24 日(日)西口地蔵尊 地蔵盆 9:30～

上記行事予定は主催者の都合等により変更・中止の場合もあり。

＜お詫び＞

先回、52 号の行事予定にて太々神楽の日が間違っていたこととお詫びいたします。

＜大高歴史の会のあゆみ＞ 〔令和6年（2024）1月～3月〕

＜例会＞ 〔第2・第4月曜日 9：30～12：00 例会（勉強会）を八幡社参集所で開催〕

- 第312回（1/8）ほだかの里だより第18号
P 8 幼い頃の思い出（その1）
P 9 ＜大高のできごと あれこれ＞〔平成27年（2015）4～6月〕
P10 ＜大高歴史の会のあゆみ＞〔平成27年（2015）4～6月〕
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて〔第18回〕殉国戦士之碑
- 第313回（1/22）P12 まちかど案内板の紹介〔第14回 奉安殿（学区資料保管庫）〕
ナゴヤ歴史探検 P84～85 「戦争と名古屋」
ほだかの里だより第19号
P 1～3（留と小春の歴史茶話）大高あれこれ1 プロローグ
- 第314回（2/12）P4～6 昭和残像
P 7 もちつきの思い出
P 8 ＜大高のできごと あれこれ＞〔平成27年（2015）7～9月〕
P 9 ＜大高歴史の会のあゆみ＞〔平成27年（2015）7～9月〕
- 第315回（2/26）P10～11 大高の歴史的石造物を訪ねて〔第19回〕裁明翁碑
P12 まちかど案内板の紹介〔第15回 寝覚の里〕
ナゴヤ歴史探検 P86～87 「焼け落ちた名古屋城と熱田空襲」
- 第316回（3/11）ほだかの里だより第20号
P 1～3 留と小春の歴史茶話 大高あれこれ2（大高城址）
- 第317回（3/25）P4～6 少年月間雑誌と講談小説
P7 幼い頃思い出（その2）
P8 鉄道記念物「日本の第1号機関車」は大高も走っていた
P9 ＜大高のできごと あれこれ＞〔平成27年（2015）10～12月〕
P10 ＜大高歴史の会のあゆみ＞〔平成27年（2015）10～12月〕

＜その他の活動＞ 〔会のあれこれ情報〕

「会報第53号（令和6年冬号）発行」（1月5日）

約650部、印刷、於 緑区社会福祉協議会。丁合は1月8日に実施

「新年会」（1月22日）懐石料理「小や町」にて開催。12名参加

美味しい酒、料理に舌鼓を打ち、親睦を図った。

会食後は店主さん案内による細根山散策では手入れの行き届いた
広大な竹林を満喫した。

「緑区ボランティアガイド交流会」（3月5日）5名参加

雨天での散策会は南区歴史倶楽部ガイド皆様の案内で笠寺界隈を見

学し、交流会は見晴台考古資料館にて開催され活発な意見交換等交流がなされた。

「あいち観光ボランティアガイドの会名古屋地区会」（3月13日）山口代表出席

東区“ウィルあいち”にて開催。4年振りに市内11団体出席の下で開催された。当日は各団体の活動内容紹介や情報交換、課題等について話われ有意義な会合であった。



＜ガイド実績＞ 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口： 深谷篤 090-8952-8610

- 1月27日（土）クラブツーリズム酒蔵見学 神の井酒造 17名（深、）
2月10日（土）安城市役所教育委員会 大高城見学 21名（深）
2月17日（土）クラブツーリズム酒蔵見学 神の井酒造 10名（初、）
2月24日（土） “ 17名（深）
3月2日（土） “ 13名（深）
3月28日（木）大高城観桜散策会 MRF主催 10名（深、林田）
3月31日（日）太々神楽見学会 17名（深、）

ガイド実績 （1 - 3月） 7件 105 名

大高緑地の四季Ⅴ [春の花木その2]

山口初宏

大高緑地は筆者が健康管理のために毎日、通っている散歩コースである。そんな身近な生活習慣の中から大高緑地の魅力について花木を主体に紹介する。今回は春の花木の第2弾である。

早春の3月に入ると健康広場の近くで3~4本の白モクレンが大きな花びらを広げて青空に映える。



白モクレン

また、その付近では純白のユキヤナギが^{あた}辺りに咲き誇り、春のおとずれを告げている。

3月中旬には西児童園南端に一本の、小彼岸桜が咲き始め、すぐあとに濃いピンクの陽光桜群が満開にねる。重ねて、ここには沢山のソメイヨシノの木が植わっているので付近一帯は素晴らしい花見の名所である。最盛期には家族連れやカップルの人々で凄い賑わい桜の園に勝るとも劣らない桜の花見場である。



陽光桜



ソメイヨシノ

次は桜の園だ。先回の[春その1]にて紙面の都合上、紹介できなかったものを以下に記す。

園奥の階段を上った台地に“ウコン桜”の木が見られる。花の咲き始めは黄色で次第に白からピンクに変わる。桜には600以上の種類がありその中で黄色いのはウコン桜だけのようである。因みに第49号に記した“御衣黄桜”は緑→黄緑→黄色になって中心部がピンクになる。

ウコン桜は江戸時代中期に作られたと考えられ

ており黄色の花になるのでウコン桜と名付けられたと言われている。その先の階段を下ると、複数のシダレ桜に目をうばわれる。



ウコン桜

シダレ桜

桜が終わるとツツジの出番である。花は公園の方々に咲いているが中でも琵琶ヶ池南側のヒラドツツジと展望台への坂道登り口付近のコバノミツバツツジは色鮮やかで美しい。他に最近では枯れて数が減ってきたが現在、取り壊し中の緑地プール沿いに咲くドウダンツツジの真っ白な花も見所である。

このように大高緑地には魅力が一杯で散歩の足取りも自然に軽くなる。(完)

説明ガイドさん & 新規会員

募集中です！

連絡先 (052) 623-2307

大高の歴史を学び伝える

大高歴史の会 会報

第53号 2024年4月

[平成21年(2009)4月発足]

連絡先 (代表) : 山口 初宏

〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神44

052-623-2307

散策関係 担当 : 深谷 篤

090-8952-8610

会報は年4回発行の予定です。

(冬1月、春4月、夏7月、秋10月)

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

(本号の編集は山口初宏が担当しました)